

桐島こより

雪辱

踏みにじられるより沈黙を選んだ
深く鋭く浸透し突き破るその日まで
炎を絶やさぬために雪の下に隠した
泥にまみれて研ぎ澄まされた感性を
そうしないと護れなかった

ざわめき

流れにたゆたう葉の波を見送る
波紋が静かに広がり消える
余韻を聞いたその先
音の涙が溢れる
風が吹く